性役割態度研究の展望

早稲田大学 東 清 和
慶応義塾大学 鈴木 淳 子

Review of research on sex role attitudes

Kiyokazu Azuma (*Department of Educational Psychology, School of Education, Waseda University, Shinjuku-ku, Tokyo 169*) and Atsuko Suzuki (*Department of Sociology, Faculty of Letters, Keio University, Minato-ku, Tokyo 108*)

There are many indices that roles of men and women have changed during the last two to three decades. This paper reviews psychological and sociological literature, and points out the following: (a) the shift of sex role attitudes, (b) their important predictors, and (c) some of cross-cultural comparisons. Sex role attitude is defined here as a learned tendency, which consistently responds favorably or unfavorably to certain sex roles. Since the 1970s, many panel surveys and longitudinal surveys, both in Japan and in USA, show that sex role attitudes have shifted toward an egalitarian direction in many fields. Cross-cultural surveys in many countries revealed that the most important predictors of sex role attitudes are, sex, education, vocation, and age. Highly educated young women with a professional/managerial job show probably the most egalitarian sex role attitude. However, cross-cultural studies indicate that Japanese women have more traditional sex role attitudes than those in other countries.

Key words: sex role attitudes, sex differences, shift towards egalitarian direction, cross-cultural research.

はじめに、日本を含む先進工業諸国の女性の間では、過去20—30年の間に未婚女性の増加・高学歴化・既婚女性の就労の増加・就労分野の拡大が顕著になった。女性労働者の増加は女性の社会における地位の変化を示す最も明白な指標 (Gerson, 1985, p. 1) だが、法的・政治的な場面でも女性の地位は変化しつつある。このような女性の人工統計学的変化を背景に、男女の役割の変化、すなわち、性役割の再構築が起こっている。

本論文の目的は、性役割の変化に伴って、人々の性役割態度が (1) どのように変化し; (2) どのような変数と強く関連しているか; (3) どのような比較文化研究があるのかを心理学および社会学の文献研究を通して明らかにすることである。なお、ここでは、数多い文献の中から主に次のような条件を満たす研究を選んだ: (a) 大学生以上の成人を対象にした研究; (b) 性役割態度そのものを目的にした研究; (c) 心理学的研究においては、信頼性・妥当性の検討がおこなわれたところの性役割態度測定尺度を使用した研究。

1 心理学における性役割研究

心理学における性役割の研究は19世紀末頃の性差研究に始まり、パーソナリティ特性・行動・態度・興味・達成・能力に関する性差について実証的な研究が行われ

てきた。研究者の関心は、男女差の存在を前提にして、性差が生物学的に規定されているのか、それとも文化によるものかの原因究明に向けられていた。

しかし、アメリカにおける女性解放運動の影響を受けて、1960年代には既成の研究の批判的再検討が始まり、1970年代には性差および女性の性役割研究が飛躍的に増加した。性差、性役割に関して次の3つの画期的な心理学的研究結果が発表された: (a) 性役割の習得には社会化が大きな役割を果たすこと (Money & Ehrhardt, 1972); (b) 科学的に認められる性差は視覚・空間把握能力・数学的能力・言語能力・攻撃性のみであり、男女間には共通点の方がはるかに多数存在すること (Maccoby & Jacklin, 1974); (c) 男性性と女性性の両方の特性を兼ね備えた心理的両性具有 (androgyny) が存在し、両性具有者は社会的適応がよく、心理的に安寧であること (e.g., Bem, 1974, 1976)。これらの研究が、性差や性による役割分業の正当性の根拠となる従来の見解を覆し、1970年代半ば頃からは男性の性役割も重要な研究分野となり、性役割研究は新たな段階に入った。

1980年代に入っても性差や性役割の研究は衰えず、性役割に関する学際的研究が増加し、比較文化研究も目立つようになった。これは、幅広い分野において性役割や性差の知識へのニーズや関心が高まってきたためと思

われる。

2 性役割態度研究

性役割とは、それぞれの性にふさわしいと期待されるパーソナリティ特性・行動特性・意識である (e.g., Andersen, 1988; 柏木, 1973; 間宮, 1979) と同時に、それらを順守するようにと圧力をかける社会的規範 (e.g., 平野・神田・小林・リドル, 1980) でもある。そこで、本論文では、性役割を男女にそれぞれふさわしいとみなされる行動やパーソナリティに関する社会的期待・規範およびそれらに基づく行動であると定義する。

心理学 (社会心理学を含む) における性役割研究には、男性性 (masculinity), 女性性 (femininity), 両性具有 (androgyny), 性役割採用 (sex role adoption: ある性の顕在的な行動特性), 性役割発達 (sex role development: 自分の性にふさわしい役割の習得・実現), 性役割同一性 (sex role identity: 自分自身の男性性・女性性についての基礎的認知), 性役割志向性 (sex role orientation: 性役割同一性と互換的な定義), 性役割選好 (sex role preference: 男女どちらかの性に関連した行動を採用したいとする願望 / そのような行動を望ましいとする認知), 性役割態度 (sex role attitude: 性役割に対して一貫して好意的もしくは非好意的に反応する学習した傾向) などの研究分野がある。これらの用語法や分類法は今なお標準化されておらず、研究者によって異なる場合がある。

性役割態度研究の意義としては以下のことが挙げられる: (a) 態度は、筆記用具で測定できる変数であり、統計的・比較文化的分析を使用した調査ができる; (b) 態度は、個人をベースにした社会的 / 文化的変化を考察するひとつのパースペクティブである (Berry, 1981)。しかも、性役割態度は、教育・デート・結婚・育児・老人介護・職業・平等・差別・女性解放運動・政治・法律・宗教など人生のほとんどの段階・分野にも関連している。そこで、性役割態度を理解することは、性役割の変化のみでなく、包括的な人々の意識変化・社会変化を理解することに導く; (c) 男女の性役割態度とさまざまな変数との関係を理解すれば、将来の態度や行動も推測できる。性役割態度は、そのような予測のためには最も重要で示唆に富んだ研究分野と考えられる。

従来の性役割態度研究において、心理学者および社会学者は次のような点について研究を行っている: (a) 性役割態度の変化; (b) 性役割態度と強い相関関係を有する予測変数としての人口統計学的・サイコグラフィック・社会経済的変数の発見および因果関係の検討; (c) 様々な変数 (e.g., 女性の就労, パーソナリティ特性, 男性性・女性性, 同性愛, ストレス) を説明する要因としての性役割態度の検討などである。

3 性役割態度測定法および尺度

上記のような研究のために、社会学においては全国調査・パネル調査・縦断的調査による態度変化の研究が行われ、概して調査票の設問は少ないが調査でのサンプル数が多いことが特徴である。心理学では、横断的調査が多くサンプル数は比較的少ないが、態度の定量的な変化を把握するために設問数の多い客観的な測定尺度が作成・使用されている。

1970年代には、女性に関する多様な問題に対する態度を測定する尺度が多数発表された。女性の生活のあらゆる面において伝統的な性役割への志向性や男女平等観などを測定するための一次元尺度が作成された。対象者は主に16歳以上の男女である。Beere はこれらの測定尺度を検討し、作成段階、信頼性、妥当性について十分な説明のある41の尺度を選択した (e.g., Arnott, 1972; Dempewolff, 1974; Beere, 1979)。その中で最も古典的なものは、belief pattern scale for measuring attitudes toward feminism (Kirkpatrick, 1936) である。同尺度は主に既婚女性の権利に対する態度を測定するもので、現在も態度測定尺度の基本的なモデルとなっている。また、これらの測定尺度の中で最もよく使用されているのは、the attitudes toward women scale (AWS) (Spence & Helmreich, 1972; Spence, Helmreich, & Stapp, 1973) で、AWS は現代アメリカ社会における女性の権利、役割、義務、特権に対する態度から男女平等意識の強さを測定する尺度である。Beere は、1970年代に作成された女性に関する問題に対する態度測定尺度一般のメソドロギー上の問題として、(a) 用語法が標準化されていない; (b) 測定尺度の信頼性・妥当性が報告されていない; (c) 測定される範囲が定義されていないなどの欠点を指摘した (Beere, 1979)。1980年代になると、女性の役割や問題に対する態度測定尺度 (Dreyer, Woods, & James, 1981; Robinson & Follingstad, 1985) ばかりでなく、男女の役割や問題に対する態度測定尺度が作成された。例えば、the bias in attitudes survey (BIAS) (Jean & Reynolds, 1980), the sex role egalitarianism scale (SRES) (Beere, King, Beere, & King, 1984), the traditional egalitarian sex role scale (TESR) (Larsen & Long, 1988) などである。その他、男性の役割に対する態度測定尺度 (e.g., Fiebert, 1983; Thompson, Jr., Grisanti, & Pleck, 1985) も作成されているが、この種の尺度は少ない。

4 日本における性役割態度研究

日本における性役割態度の研究は、1970年代以来今日まで続く総理府 (e.g., 1973) および日本放送協会 (NHK) (e.g., 1985) による日本人の意識変化の縦断的調査から

始まった。1980年代以降には、性役割態度と女性の職業生活との結びつき (e.g., 平野・神田・小林, 1980), 性役割意識の変化 (e.g., 木村, 1984; 見田, 1985), 性役割意識の現状と分析 (e.g., 神田, 1982; 中野区, 1980; 鈴木, 1987), 比較文化調査 (総理府, 1984; Sugiyama, 1984; 鈴木, 1991; Suzuki, 1991) に関する報告などがされているが、文献は多くない。

従来の日本の調査では態度測定尺度が使用されないことが多く、使用される場合はアメリカの尺度の翻訳が利用されてきた (東・小倉, 1984; 東, 1990)。しかし、日本人の性役割態度の客観的測定尺度として、平等主義的性役割態度スケール (the scale of egalitarian sex role attitudes: SESRA) が作成された (Suzuki, 1989; 鈴木, 1991; Suzuki, 1991)。同スケールは、成年男女が結婚、教育、職業、社会の4つのカテゴリーにおける性役割に対する態度においてどの程度平等主義的か、あるいは伝統主義的かを客観的に測定することを意図している。この他にも日本人 (青年) の性役割態度あるいは性役割観を測定するための試みがなされつつある (石田, 1989; 佐野, 1989)。

5 性役割態度の変化

性役割態度を測定・分析した1970年代以降の心理学・社会学の文献をまとめ、日本および最も研究の盛んなアメリカにおいて性役割態度がいかに変化してきたかを概観する。

日本での動向

調査結果によると、日本人、特に女性の性役割態度が1970年代から1988年にかけて平等主義的方向へ変化したことを示している。

(1) 男女の役割に対する態度: 総理府広報室は、1972年以来、女性に関する意識調査もしくは世論調査を断続的に行っている (e.g., 総理府, 1973, 1988)。毎回使われる設問のひとつが性による役割分業の肯定を端的に表す“男は仕事、女は家庭”である。1972年から1987年の間には、設問に賛成のパーセンテージが80%強から43%に減少し、日本人の性役割態度が以前より平等主義的になったのは明らかである。この設問の回答者の約3分の1は“どちらともいえない”を選んだ。彼らは完全な性による役割分業には賛成しないが、家庭や職場での平等な役割分担を認めているわけでもない。基本的には性役割態度は伝統主義的であるが、相手の役割分担を自分の二次的・副次的な仕事とみなす柔軟さと現実性を持ち合せている (神田, 1982)。

以下はNHKによる日本人の意識の4回 (1973, 1978, 1983, 1988) にわたる縦断的調査の結果である (e.g., 秋山, 1990)。

(2) 理想的な家庭に対する態度: 1988年の夫唱婦

随型 (20%) と夫婦自立型 (18%) のパーセンテージは、1973年とほとんど変わらないが、同期間に役割分担型 (25%) は男女ともに著しく減少し、かわりに、家庭内協力型 (35%) が増加した。このタイプの性役割態度は、総理府 (1988) の調査で“どちらとも言えない”と答えた人に近いと考えられる。基本的には伝統主義的態度で、相手の役割分担を助けているが、役割を性によってはっきり分けて認識している。家庭内協力型は、役割分担型の延長線上にあるやや平等主義的な傾向のあるタイプと考えられる。

(3) 既婚女性の就労に対する態度: 調査では毎回、男女回答者の約40%が育児優先型 (子供ができたなら仕事をやめる) に賛成しているが、家庭専念型は15年間に35%から24%に減少し、両立型は20%から33%に増加した (e.g., 秋山, 1990)。女性では育児優先型も家庭専念型も減少し続けて両立型のみが増加しているにもかかわらず、男性は両立型が増加しても、育児優先型が常に約40%を維持している (秋山, 1990)。

(4) 夫の家事に対する態度: 過去4回のNHK調査の設問に対する回答中、1973年から1983年の女性の態度に最も大きな変化があった (17%増加) のは“夫が台所の手伝いや子供のおもりをするのは当然だ”で、男女合わせると1973年から1988年に賛成が19%増加して約70%に達した。この変化は、性・年齢・教育レベル・職業に関係なく起ったが、設問の内容は夫が妻を手伝うことで、平等に家事を分担することではない。

以上の結果から、日本人の性役割態度は、1970年以来、特に1978年以后男女ともに平等主義的な方向に変化し、男女の役割の区別が薄れてきていることが明らかになった。しかし、全般的には、夫が収入を得、妻が暖かい家庭を築くことに主たる責任を担うという性別役割分担の考え方が強い。伝統主義的な態度の持主が減少しても、平等主義的な態度の人より、擬似平等主義的——表面上やや平等主義的だが基本的には伝統主義的——態度の人の方が増加しているのが今日の日本人の性役割態度の特徴である。これは、日本人の性役割態度が伝統主義から平等主義への過渡期にあるからとも考えられる。

アメリカでの動向

アメリカ人男女の性役割態度が1960年代から1985年にかけて、特に1970年代に平等主義的な方向に変化したことと、それが特定の層にのみ起きた変化ではなく、あらゆる人口統計学的グループに生じた共通の変化だということが多数の研究報告書によって明らかにされた。

公民権法の制定と女性解放運動をはさむ1964年から1974年にかけて、成人女性を対象にした性役割態度の調査が3回行なわれた (Mason, Arber, & Czajka, 1976)。分析によると、各測定ごとに女性の性役割態度が平等主義的な方向に変化し、変化はあらゆる教育レベル・人口

統計学的・社会経済的グループに、ほぼ同じ程度に起こった。既婚女性を対象にした1962年と1977年のパネル調査でも、男女の性役割態度が平等主義の方向にかなり変化したが、変化は家事の分担などの具体的な面より、原則論で大きいことが指摘された(Thornton & Freedman, 1979)。女子大学生を対象にした調査では、1969年と1973年の間に、特に職業、収入、家庭での男女の役割分担においてフェミニスト的な考え方への大きな変化が認められた(Parelius, 1975)。

1970年の全国調査による女性の性役割態度研究では以下について強いコンセンサスが発見された：(a) 伝統的に男女に期待される社会的責任；(b) 母親の就労が就学以前の子供に与える影響；(c) 男女平等賃金と機会の平等(Mason & Bumpass, 1975)。MasonとBumpassは、多くの女性が家庭での性による役割分担に対しては伝統主義的でありながら女性の労働市場での権利にはリベラルなことから、性役割態度のイデオロギーは一次元ではないと結論づけた。

1970年代に入ってから社会的、政治的に保守的な傾向が強くなったにもかかわらず、18歳以上の男女の社会調査から、男女の性役割態度が1972年より1978年の方が平等主義的になり、変化の大部分は1975年の間に起こったことが示唆された(Cherlin & Walters, 1981)。1970年代半ばから1980年にかけての女性およびその子供の性役割態度の変化についてのパネル調査では、平等主義的性役割態度への変化が一貫して続いていたことが明らかにされた(Thornton, Alwin, & Camburn, 1983)。さらに、3つのコホートの1975年から1980年にかけての縦断的比較データから、家庭内の性役割についての女性の態度が一貫して平等主義的傾向にあることが確認された(McBroom, 1987)。

1972年から1980年にかけての大学生およびその両親の態度変化についての調査結果では両者に平等主義への有意で大きな変化があったが、女子大学生は、1976年から1980年にかけて、わずかながら有意に保守化の方向への変化を見せたことが判明した(Helmreich, Spence, & Gibson, 1982)。著者らは、この保守化への変化が、当時の大学生の特徴とされた保守主義と一致すると解釈した。しかし、フェミニズムに対するバックラッシュがあったとされている1977年から1985年にかけての女性の家庭役割に対する態度の全国調査の結果は、フェミニスト的意見が男女ともに増加したことを明らかにした(Mason & Lu, 1988)。また、あらゆる人口統計学的・社会経済的グループにフェミニスト的傾向が浸透し、各コホートごとの段階的な変化より、コホート内での変化の方が大きいことを示した。

6 性役割態度と人口統計学的・社会経済的特性との関係

性役割態度と人口統計学的・社会経済的変数との関係を記述し、どの変数が、個人の性役割態度の重要な予測変数になりうるかを明らかにする。変数は、(a) 性、(b) 教育、(c) 職業、(d) 年齢である。(この他に収入・子供の有無・婚姻状況・宗教・人種などの調査結果もあるが、数が少なく結果が一致しない傾向があり、性役割態度との関係も強くないことが示唆されているので省略する。)

(1) 性：男女の態度変化の調査では、どの国でも男性の方が女性より伝統主義的である(e.g., 秋山, 1990; 東・小倉, 1984; 東, 1990; Haworth, Povey, & Clift, 1986; Jean & Reynolds, 1980; 木村, 1984; Martin, Osmond, Hesselbart, & Wood, 1980; Mason & Lu, 1988; Nelson, 1988; Osmond & Martin, 1975; Rao & Rao, 1985; Tomeh, 1981; Tomeh & Gallant, 1984)。性は性役割態度を予測する最も大切な変数である。日本では女性の平等主義的意識変化が男性に先行し、男性の変化はそれに従う(児島, 1985)ことから、日本の男性が将来いっそう平等主義的になることが予測される。

(2) 教育レベル：教育レベルと性役割態度との関係を調べたすべての研究者が強い相関関係を報告していることから、教育レベルは性役割態度の予測変数として最も大切なもののひとつである。教育レベルが高いほど態度が平等主義的である(e.g., Mason, Arber, & Czajka, 1976; Mason & Lu, 1988; NHK, 1985; Rosenberg, 1984; 鈴木, 1987; Suzuki, 1991; Tallichet & Willits, 1986; Thornton & Freedman, 1979)。教育レベルの高い人の態度が平等主義的であるのは、教育のおかげなのか、本来平等主義的な人がより高い教育を受けるのか、この因果関係について唯一の調査がThorntonらによって行なわれた(Thornton et al., 1983)。その結果判明したことは、教育レベルは性役割態度の形成に影響を与えるが、態度は教育レベルに影響を与えないということである。

(3) 職業：男性はほとんどの文化において働くことが当然とみなされているが、女性にとってはライフスタイル選択肢のひとつとしての要素が強い。そこで、性役割態度と職業の有無・職種・雇用形態との関係が職業行動の予測に重要になってくる。文献は、職業が性役割態度と最も一貫性のある関係をもつ予測変数のひとつであることを示している。すなわち、有職・専門職・就労期間が長い・働いた経験のある女性が、それぞれ無職・非専門職・就労期間が短い・働いた経験のない女性より性役割態度における伝統性が低い(e.g., Mason et al., 1976; McBroom, 1987; Morgan & Walker, 1983; Tallichet & Willits, 1986; Thornton & Freedman,

1979).

日本では、有職女性は無職の女性より平等主義的という報告(上子, 1979; 小木曾, 1983)と、職業の有無は性役割態度と無関係という報告(鈴木, 1987)がある。一方、平等・自立志向の女性はそうでない女性より仕事継続を理想とする人が多く(東・目黒・神尾, 1990)、重回帰分析の結果からは、専門的/管理的職業が平等主義的性役割態度と強い相関関係があり、非専門的/非管理的職業および無職と性役割態度は無関係なことが明らかにされた(Suzuki, 1989)。つまり、日本女性の性役割態度予測変数としては職の有無より職種やキャリア志向が有効なことが示唆されている。

職業と性役割態度の因果関係の存在とその方向はあまり明らかにされていない。文献も少ないので一般化はできないが、結婚前ではなく結婚後の就労経験が母親の性役割態度を決定する変数であり(Thornton et al., 1983)、雇用は性役割態度に弱い影響を与えるが、逆方向の影響はない(Bielby & Bielby, 1984; Molm, 1978)。

(4) 年齢: 年齢が平等主義的性役割態度と負の相関関係にある予測変数だという報告がいくつかある(e.g., Morgan & Walker, 1983; Nelson, 1988; Suzuki, 1989; Thornton, Alwin, & Camburn, 1983)。NHK 調査の結果からも、20 代後半の男女は態度が特に平等主義的になったことが指摘され(見田, 1985)、若い女性がより平等主義的な態度を持つことも示唆されている(Bankart, 1985; 神田, 1982; 木村, 1984)。女性の世代別性役割態度調査では、祖母、母親、娘の順に保守的であった(Dambrot, Papp, & Whitmore, 1984; Slevin & Wingrove, 1983; Thornton et al., 1983)。若い方が、平等主義的な社会的雰囲気なかで育ち、教育を受け、社会の風潮に敏感であるから、態度が平等主義的になると考えられる。

以上の結果から、高学歴、管理職/専門職の若い女性が平等主義的 attitude を持つ可能性が最も高いことが判明した。Morgan と Walker は、特にこのような特性を持つ女性の態度が平等主義方向へと変化するの、伝統主義的であるより有利だからであることを交換理論を用いて説明している(Morgan & Walker, 1983)。

7 性役割態度における比較文化研究

比較文化的なパースペクティブは、それぞれの社会の性役割態度における普遍性と独自性の理解に欠かせない。国によってどのように違い、なぜ異なるのかを示せると同時に、共通性を見いだして一般原則をたてることもできる。しかし、1980 年代に入って比較文化研究が増加しつつあるものの、絶対数が少なく、アフリカ、アジア、ラテンアメリカにおける研究は行われない傾向がある(Rao & Rao, 1985)。また、わずかの例外を除いて

(e.g., Parry, 1983; 鈴木, 1987; 鈴木, 1991; Suzuki, 1991)、ある国の人々を対象に作成した測定尺度を異文化で使用する際に信頼性・妥当性の再検討を怠りがちで、しかも、いくつかの例外(e.g., Joesting, 1982; Rosenberg, 1984)以外、研究の対象者が大学生に偏りがちである。

日本人の比較研究は少なく、女性の役割に対する態度研究が主である。日本女性は他の国の女性に較べて全般的に伝統主義的で(e.g., Campbell & Brody, 1985; 総理府, 1984; Sugiyama, 1984; Suzuki, 1991)、特に家事や育児の男女分業を肯定するが、職業・社会に関しては平等主義的な考え方を持つ(Campbell & Brody, 1985; Suzuki, 1991)。

8 性役割態度研究の問題点および今後望まれる研究

(1) 調査対象者: 性役割態度研究の対象者はもっぱら女性に偏っている。男女の役割が補完的で相互に依存しあうことを考えれば、今後は男性の性役割態度研究が増加することが望ましい。また、比較文化的パースペクティブが欠けていることから、白人中産階級の学生や女性ばかりでなく、さまざまな文化・人種・階級・職業の男女の調査を行なって、普遍性を発見することが期待される。

(2) 調査方法: 使用されている態度測定尺度の信頼性・妥当性の検討が行なわれなかったり、質問項目が1つもしくは非常に少ない調査が多い。さらに、縦断的調査・パネル調査より、横断的調査が主で、態度と変数の因果関係の検討や将来の行動予測が難しい。コホート分析も少ない。これらを考慮した調査プランを計画することが肝要である。

(3) 調査内容: 性役割態度研究ではあらゆる事柄に対する態度の検討が求められているが、実際には家庭と職業というコンテキストの中での態度研究が多い。劇的に変化する現代社会の具体的な客観的な姿を浮き彫りにし、将来の態度予測を可能にするためには、社会的・政治的場面での性役割態度研究が今後一層必要になるであろう。また、将来の行動予測のためには、性役割態度変化と行動変化の関係に関する研究も必要である。

文 献

- 秋山登代 1990 シンポジウム“変わる日本人の意識”調査研究報告資料 NHK 放送文化調査研究所
- Andersen, M. L. 1988 *Thinking about women*. New York: Macmillan Publishing Company.
- Arnott, C. C. 1972 Husbands' attitudes and wives' commitment to employment. *Journal of Marriage and the Family*, 34, 673-684.
- 東 清和 1990 青年期における性役割志向性の性差 社会心理学研究, 6, 97-106.

- 東 清和・小倉千加子 1984 性役割の心理 大日本図書
- 東 清和・目黒依子・神尾真知子 1990 女性の就労パターンに関する時系列的研究報告 東京都生活文化局
- Bankart, B. B. 1985 Japanese attitudes toward women. *Journal of Psychology*, **119**, 45-51.
- Beere, C. A. 1979 *Women and women's issues: A handbook of tests and measures*, San Francisco: Jossey-Bass Publishers.
- Beere, C. A., King, D. W., Beere, D. B., & King, L. A. 1984 The sex-role egalitarianism scale: A measure of attitudes toward equality between the sexes. *Sex Roles*, **10**, 563-576.
- Bem, S. L. 1974 The measurement of psychological androgyny. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, **42**, 155-162.
- Bem, S. L. 1976 Probing the promise of androgyny. In A. G. Kaplan & J. P. Bean (Eds.), *Beyond sex-role stereotypes: Readings toward a Psychology of androgyny*. Boston: Little, Brown. Pp. 48-62.
- Berry, J. W. 1981 Social and cultural change. In H. C. Triandis & R. W. Brislin (Eds.), *Handbook of cross-cultural psychology*. Vol. 5. Social psychology. Boston: Allyn & Bacon. Pp. 211-279.
- Bielby, D. D. V., & Bielby, W. T. 1984 Work commitment, sex-role attitudes, and women's employment. *American Sociological Review*, **49**, 234-247.
- Campbell, R., & Brody, E. M. 1985 Women's changing roles and help to the elderly: Attitudes of women in the United States and Japan. *Gerontologist*, **25**, 584-592.
- Cherlin, A., & Walters, P. B. 1981 Trends in United States men's and women's sex-role attitudes: 1972 to 1978. *American Sociological Review*, **46**, 453-460.
- Dambrot, F. H., Papp, M. E., & Whitmore, C. 1984 The sex role attitudes of three generations of women. *Personality and Social Psychology Bulletin*, **10**, 469-473.
- Dempewolff, J. A. 1974 Development and validation of a feminism scale. *Psychological Reports*, **34**, 651-657.
- Dreyer, N. A., Woods, N. F., & James, S. A. 1981 ISRO: A scale to measure sex-role orientation. *Sex Roles*, **7**, 173-182.
- Fiebert, M. S. 1983 Measuring traditional and liberated males' attitudes. *Perceptual and Motor Skills*, **56**, 83-86.
- Gerson, K. 1985 *Hard choices*. Berkeley: University of California Press.
- Haworth, G., Povey, R., & Clift, S. 1986 The attitudes towards women scale (AWS-B): A comparison of women in engineering and traditional occupations with male engineers. *British Journal of Social Psychology*, **25**, 329-334.
- Helmreich, R. L., Spence, J. T., & Gibson, R. H. 1982 Sex-role attitudes: 1972-1980. *Personality and Social Psychology Bulletin*, **8**, 656-663.
- 平野貴子・神田美知子・小林幸一郎・J. リドル 1980 女性の職業生活と性役割 社会学評論, **120**, 17-37.
- 石田英子 1989 フェミニズム度からみた性役割観の動向 日本社会心理学会第30回大会発表論文集, 151-152.
- Jean, P. J., & Reynolds, C. R. 1980 Development of the bias in attitudes survey: A sex-role questionnaire. *Journal of Psychology*, **104**, 269-277.
- Joesting, J. 1982 Sex-role attitudes of Australian and United States women's rights activists. *Psychological Reports*, **51**, 839-842.
- 上子武次 1979 家族役割の研究 ミネルヴァ書房
- 神田道子 1982 女たちのゆくえ 勁草書房
- 柏木恵子 1973 現代青年の性役割の習得 依田 新他 (編) 現代青年心理学講座第5巻 金子書房 Pp. 101-139.
- 木村恵子 1984 女性の性役割意識 女性学研究会(編) 女たちのいま 勁草書房 Pp. 210-232.
- Kirkpatrick, C. 1936 The construction of a belief-pattern scale for measuring attitudes toward feminism. *Journal of Social Psychology*, **7**, 421-437.
- 児島和人 1985 意識変化の方向・過程・将来 NHK 世論調査部(編) 現代日本人の意識構造 日本放送出版協会 Pp. 183-213.
- Larsen, K. S., & Long, E. 1988 Attitudes toward sex-roles: Traditional or egalitarian? *Sex Roles*, **19**, 1-12.
- Maccoby, E. E., & Jacklin, C. 1974 *The psychology of sex differences*. Stanford: Stanford University Press.
- 間宮 武 1979 性差心理学 金子書房
- Martin, P. Y., Osmond, M. W., Hesselbart, S., & Wood, M. 1980 The significance of gender as a social and demographic correlate of sex role attitudes. *Sociological Focus*, **13**, 383-396.
- Mason, K. O., Arger, A., & Czajka, J. L. 1976 Changes in U.S. women's sex-role attitudes, 1964-1974. *American Sociological Review*, **41**, 573-596.
- Mason, K. O., & Bumpass, L. L. 1975 U.S. women's sex-role ideology, 1970. *American Journal of Sociology*, **80**, 1212-1219.
- Mason, K. O., & Lu, Y. 1988 Attitudes toward women's familial roles: Changes in the United States, 1977-1985. *Gender and Society*, **2**, 39-57.
- McBroom, W. H. 1987 Longitudinal change in sex role orientations: Differences between men and women. *Sex Roles*, **16**, 439-452.
- 見田宗介 1985 現代青年の意識の変貌 見谷宗介・山本 泰・佐藤健二(編) 文化と社会意識 東京大学出版会 Pp. 76-94.
- Molm, L. D. 1978 Sex role attitudes and the em-

- ployment of married women: The direction of causality. *Sociological Quarterly*, **19**, 522-533.
- Money, J., & Ehrhardt, A. 1972 *Man and woman, boy and girl*. Baltimore: Johns Hopkins University Press.
- Morgan, C.S., & Walker, A.J. 1983 Predicting sex role attitudes. *Social Psychology Quarterly*, **46**, 148-151.
- 中野区婦人問題担当 1980 中野区婦人問題実態調査
- Nelson, M.C. 1988 Reliability, validity, and cross-cultural comparisons for the simplified attitudes toward women scale. *Sex Roles*, **18**, 289-296.
- NHK 世論調査部(編) 1985 現代日本人の意識構造 日本放送出版協会
- 小木曾英一(監修)生命保険文化センター(編) 1983 80年代 女性の生活 現在と将来 日本放送出版協会
- Osmond, M.W., & Martin, P.Y. 1975 Sex and sexism: A comparison of male and female sex-role attitudes. *Journal of Marriage and the Family*, **37**, 744-758.
- Parelius, A.P. 1975 Emerging sex-role attitudes, expectations, and strains among college women. *Journal of Marriage and the Family*, **37**, 146-153.
- Parry, G. 1983 A British version of the attitudes towards women scale (AWS-B). *British Journal of Social Psychology*, **22**, 261-263.
- Rao, V.V.P., & Rao, V.N. 1985 Sex-role attitudes across two cultures: United States and India. *Sex Roles*, **13**, 607-624.
- Robinson, E.A., & Follingstad, D.R. 1985 Development and validation of a behavioral sex-role inventory. *Sex Roles*, **13**, 691-707.
- Rosenberg, T.J. 1984 Sex-role attitudes of working-class women in Bogota, Colombia, 1977. *Sex Roles*, **11**, 79-91.
- 佐野幸子 1989 性別態度の測定について 日本社会心理学会第30回大会論文集, 153-154.
- Slevin, K.F., & Wingrove, C.R. 1983 Similarities and differences among three generations of women in attitudes toward the female role in contemporary society. *Sex Roles*, **9**, 609-624.
- 総理府婦人問題担当室 1984 婦人問題に関する国際比較調査
- 総理府広報室 1973 婦人に関する意識調査
- 総理府広報室 1988 女性に関する世論調査
- Spence, J.T., & Helmreich, R.L. 1972 The attitudes toward women scale: An objective instrument to measure attitudes toward the rights and roles of women in contemporary society. *Journal Supplement Abstract Service Catalog of selected Documents in Psychology*, **2**, 66.
- Spence, J.T., Helmreich, R.L., & Stapp, J.A. 1973 A short version of attitudes toward women scale (AWS). *Bulletin of the Psychonomic Society*, **2**, 219-220.
- Sugiyama, M. 1984 A woman's place in society comparative attitudes in Japan, West Germany and the United States. *Behaviormetrika*, **15**, 55-75.
- 鈴木淳子 1987 フェミニズム・スケールの作成と信頼性・妥当性の検討 社会心理学研究, **2**, 45-54.
- Suzuki, A. 1989 The scale of egalitarian sex role attitudes: scale development and comparison of American and Japanese women. Unpublished master's thesis, Harvard University, Cambridge, M.A.
- 鈴木淳子 1991 平等主義的性役割態度: SESRA (英語版) の信頼性と妥当性の検討及び日米女性の比較 社会心理学研究, **6**, 80-87.
- Suzuki, A. 1991 Egalitarian sex role attitudes: Scale development and comparison of American and Japanese women. *Sex Roles*, **24**, 245-259.
- Tallichet, S.E., & Willits, F.K. 1986 Gender-role attitude change of young women: Influential factors from a panel study. *Social Psychology Quarterly*, **49**, 219-227.
- Thompson, E.H., Jr., Grisanti, C., & Pleck, J.H. 1985 Attitudes toward the male role and their correlates. *Sex Roles*, **13**, 413-427.
- Thornton, A., Alwin, D.F., & Camburn, D. 1983 Causes and consequences of sex role attitudes and attitudes change. *American Sociological Review*, **48**, 211-227.
- Thornton, A., & Freedman, D. 1979 Changes in the sex role attitudes of women, 1962-1977: Evidence from a panel study. *American Sociological Review*, **44**, 831-842.
- Tomeh, A.K. 1981 Correlates of sex role attitudes in a Korean student population. *Journal of Asian and African studies*, **16**, 169-185.
- Tomeh, A.K., & Gallant, C.J. 1984 French men's and women's sex role attitudes. *International Journal of Comparative Sociology*, **25**, 226-242.

—1990.7.2. 受稿, 1991.1.19, 受理—